



同志社と社会福祉

—新島襄の良心の系譜—



コンパッションと良心の痛み

- 個人的なるものと、社会的なるもの
- 社会のなかのマイノリティの文脈で発露
- Compassionと関連 社会問題への眼差し

- 例) 社会福祉従事者の数: 日本のなかのキリスト教、アメリカのなかのユダヤ教

社会福祉の良心 欧米の場合

福祉実践行動の原動力、起爆剤となる

「良きサマリア人」スピリッツ ⇒

欧米福祉の源流 “キリスト教的良心”

主流派でなく、組織力もないときに生じる

ウエスレーと国教会 救世軍と国教会

ミュラーと国教会 クエーカーと国教会

Jane Addamsの例

社会福祉の良心 日本の場合

• 日本の場合 欧米キリスト教の影響

• 同志社「社会福祉」派or「良心派」の系譜

社会福祉の歴史形成過程と同志社福祉

- 慈善→(博愛)→社会事業→厚生事業→社会福祉
- 神学部→社会事業学科→厚生学科→社会福祉学科

5

新島スピリットとは？

「固より新島先生は何等の神学を残されなかった」大塚節治
1942:3「回顧と展望」『基督教研究』20-1

「下民ノ友」「人民ノ木鐸(ぼくたく)」(全集 I 46-47)

「人民ノ友トナル」(同:424)

「薫陶を受けた者達が、或は貧しき者の友を以って任じ、或は囚われたる者を放つことを志し、艱(なや)み苦しめるに伍して終生、そのサービスに尽くさんと決心する様になって来たことは、当然の結果と言ふべきであらう。即ち同志社精神が我国社会事業界に先立って、その原動力を起こしたと見るべきであります。」牧野虎次1934「同志社精神と社会事業」『同志社校友同窓会報』

「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」

これは新島襄の熟慮した教育理念のスローガンのように思われているが、実はそうではない。このことばは、新島襄が一八八五（明治一八）年に、同志社英学校創立十周年の記念式典の式辞の中で、「思わず」発したことばである。

新島の留守中に、ある学生が重大な問題を起こし退学処分を受けた。新島がこの学生の将来を嘆き悲しみ、涙ながらに感極まって口走ったことばであった。つまり、そのことばは、ある学生〇〇君という個人を想起しての具体的なことばであり、少なくとも上から目線の学校長の人生訓とか、理想の教育を語るスローガンではない。

新島はこの記念式典に臨席した来賓の前で、学生退学にまつわる触れられたくない学内の不祥事、不始末を包み隠さずに涙をもって語り、自責の念を表明して、一人の学生の大切さを力説した。

「満場一人トシテ袖ヲ濡サブル者ナカリキ」というほど、その印象は強く、反響も大きかったようである。現在であれば、式典での「場違い発言」「場の空気が読めない発言」として非難されるであろう。

「99匹の羊」のたとえ話

99匹の羊 一匹の羊

「私がもう一度教えることがあれば、クラスの中でもっともできない学生にとくに注意を払うつもりだ。それができれば、私は教師として成功できると確信する」（『現代語で読む新島襄』現代語で読む新島襄編集委員会／一七九頁、原文は英文）

新島の福祉施設訪問、表現データ

「基督教初リテ病院ノ挙アリ、幼院ノ挙アリ、養老院ノ挙アリ」(全集Ⅱ467)

「福祉」という単語をかなり使っている

別資料より①から⑨ 岩波三部作より抜粋

新島襄の「福祉」思想の萌芽

1) コングリゲーションナリズム 会衆派信仰 Cf長老派
民主主義 自主・独立

2) ボランティアズム

英米流 抵抗の論理、自主性、民間性(⇔官)

3) 「良心」

新島の「良心」教育 人物教育(cf 人才、人材)

「一国の良心ともいうべき人物」

社会福祉の良心「同志社派」

- 「社会福祉の良心」派 「底辺へむかう志」(小倉襄二)
- 新島襄⇒ 「一国の良心ともいうべき人物」
- 「良心の全身に充満したる丈夫(ますらお)の起り来(きた)らん事を」
- 「道徳心を磨き、品性を高め、精神を正しく強めるように勤め、ただ、技術や才能ある人物を育成するだけでなく、いわゆる『良心を手腕に運用する人物』」
- 「それはただ、キリスト教の神を信じ、真理を愛し、他人に対する思いやりの情に厚いキリスト教の道徳によって、『一国の精神となり、活力となり、柱石となる人物』である」。

「同志社派」の誕生

会衆派主義的キリスト教、ボランティアズム、が明治、大正期の時代状況のなかで「良心」という装置によって結合

⇒「同志社派」の誕生

(CF:キリスト教と社会主義)

「政治の早稲田、経済の慶應、福祉の同志社」(小倉襄二)

(海老名弾正の「精神」からの援用か)

新島襄、山本覚馬、留岡幸助、山室軍平、(石井十次)、牧野虎次、(賀川豊彦)、竹中勝男、竹内愛二、嶋田啓一郎、金徳俊

同志社社会福祉水脈

(実践)

留岡幸助、山室軍平、八濱徳三郎、牧野虎次、
大塚素^(しるし)、井深八重、中村遙、野村かつ子、更
井良夫、賀集一、大塚達雄、(福井達雨)

(研究)

竹中勝男、竹内愛二、大林宗嗣、嶋田啓一郎、
ドロシー・デッソー、岡田藤太郎、金徳俊

13

社会福祉の歴史形成過程と同志社福祉

- 慈善 → (博愛) → 社会事業 → 厚生事業 → 社会福祉
- 神学部 → 社会事業学科 → 厚生学科 → 社会福祉学科

14

同志社社会福祉沿革

1931(昭6)年 文学部神学科社会事業学専攻
1941(昭16)年 文学部文化学科厚生学専攻
1944(昭19)年 法文学部厚生学科(1946文学部社会学科)
1948年(昭23)年 文学部社会学科社会福祉(学)専攻
(1950年(昭和25) 大学院 社会福祉学専攻開設)
2005(平成17)年 社会学部社会福祉学科

15

社会福祉専任教員 群像

1) 前史 慈善時代 同志社英学校、神学校時代 1875—1930

新島襄、八重、山本覚馬、デービス、牧野虎次ほか

2) 神学科社会事業学時代31—40(竹中)

竹中〔30-53〕 大林〔35-44〕 嶋田〔35-80〕 竹内〔42-46〕 →48年関学移籍

嘱託講師： 竹内愛二、牧野虎次、32より海野幸徳、33大林宗嗣

3) 厚生事業時代41—47(竹中、竹内、大林、嶋田)

竹中〔30-53〕 大林〔35-44〕 嶋田〔35-80〕 竹内〔42-46〕

4) 社会福祉学専攻時代48—(嶋田、デッソー、小倉、大塚ほか)

竹中〔30-53〕嶋田〔35-80〕中條〔49-66*91〕Grant〔50-61〕小倉〔50-97〕Wood
〔50-74〕井垣〔53-93*98〕大塚〔54-92〕Dessau〔51・58*-70〕住谷〔59-94〕井岡
〔71-07〕黒木〔78-〕岡本〔80-07〕渡辺〔93*77-04〕

16

前史①(英学校時代)

新島八重 山本覚馬
アメリカンボード、宣教師一団

J.C.Berry, J.D.Davis, D.W.Learned, D.C.Green, M.L.Gordon,
M.F.Denton,
熊本バンド



山本覚馬 1828－1892

- 八重の兄、会津藩士、砲術家、京都府顧問、京都府議会初代議長、蘭学塾の教授
- 新島とキリスト教に共鳴 1885年受洗
- 同志社の命名者、土地
- 全盲の人



前史② 同志社神学校 慈善事業時代

留岡幸助

山室軍平（石井十次）

牧野虎次

北海道バンド
(教誨師)



留岡幸助1864-1934

- 1885同志社入学
- 1888卒業後、牧師、教誨師
- アメリカ留学
- 1889東京家庭学校
- 1914北海道家庭学校創設



山室軍平1872-1940

- 1889同志社入学 1895同志社退学
- 「偉大なる退学者」
- 日本救世軍創設
- 日本を代表するキリスト教伝道者
- 廃娯運動
- 『平民の福音』



21

牧野虎次1871-1964

「氏は、早くから社会事業の重要性を認識し、京都四条基督教会牧師として京都大二義塾(感化事業)、京都同友会(釈放者保護事業)を創立し、釈放者保護事業に尽力したのをはじめ、内務省の囑託として全国社会事業の普及とその施設の整備拡充に尽力し、また、財団法人東京家庭学校(感化教育)校長及び各種社会事業団体の要職を兼ね、60有余年の永きに亘り社会事業に身を捧げた。なお、同志社総長をはじめ、京都府教育委員会委員長の要職に就き、子弟の育成に力を注ぎ、教育界に尽くした功績もまた誠に大である。」(京都市広報HPより)

1934年
東京家庭学校校長
1938年
同志社大学長
1941年
同志社総長



22

1931-40文学部神学科社会事業専攻時代

「基督教実際問題研究会」(富森京次)

- 竹中勝男
- 賀川豊彦(客員) 大林宗嗣
- 竹内愛二・牧野虎次(嘱託)
- 嶋田啓一郎
- 社会福祉実践家



竹中勝男1898－1959

- 社会事業学科の設計、神学部からの分離の主導者
- 学問としての社会福祉学、あるいは福祉政策学の祖。
- シカゴ大学留学
- 直系 小倉襄二
- 戦後は、同志社退職 参議院議員へ
- (「戦後のケジメ」小倉)



竹内愛二1895－1980

- 同志社中学の出身
1945同志社教授 →1948年関西学院へ
- 竹中との関係
- ケースワーク アメリカ的ソーシャルワークの直輸入
- 嶋田とともにキリスト教社会福祉学会創設

25

大林宗嗣1884－1944

- メソジスト系の牧師
- シアトルの日本人教会で牧会
- 1919年大原社会問題研究所研究員
- 1933年より同志社嘱託
- 1941年より教授
- セツルメント研究

26

嶋田啓一郎1909－2003

- 41年から80年まで同志社の教育
- 「竹・竹論争」? の止揚
- 社会福祉学の価値論の提唱者
- 岡村、孝橋、嶋田理論の確立 論争
- 生協運動
- 賀川豊彦の直弟子
- キリスト教社会福祉学会会長



27

1941-46 厚生学の時代

1941-44:文学科厚生学専攻(大塚節治 反対)

- 竹中勝男 (1898-1959)竹内愛二 (1895-1980)
- 大林宗嗣(1884-1944)嶋田啓一郎(1909-2003)

1944-1946法文学部厚生学科

国家による介入、統制、「厚生」として生き残る危機的時代

1948-2005:文学部社会福祉学専攻時代

竹中勝男

竹内愛二

大林宗嗣

デッソー

嶋田啓一郎

小倉襄二,井垣章二, 大塚達男,住谷馨



Dorothy Dessau (1900－1980)

- GHQ派遣1947年広島勤務
- 51年より70年まで同志社大学院教授*(嘱託含む)
- 1953年 葵橋ファミリークリニック設立
- 同志社教授と兼務
- アメリカ的ケースワークの直伝
- 大塚達雄、住谷馨らに影響
- 実学としての福祉を伝授(福山ほか多くの門下)

大学院社会福祉学専攻

- 1950年 日本初の大学院社会福祉学専攻設置
- 1951年 Dorothy Dessauを教授*として招聘

井岡勉、岡本民夫
(黒木保博)



2005- :社会学部社会福祉学科

